

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「農薬の一律基準値」
- 2) 「健康をうたった次世代遺伝子組み換え」
- 3) 「『環境への取り組み』都道府県ランキング」

1) 「農薬の一律基準値」

名古屋で、国産のハウレン草からプロチオホスという殺虫剤が検出された事件で、『基準値の260倍もの量』と報道された。

何百倍もの量が検出されたと聞くと、非常に恐ろしい印象を受けるが、このプロチオホスという殺虫剤は、茶葉なら5ppm、ブドウなら2ppmが基準値だ。

このプロチオホスはハウレン草に使用可能の登録がされていなかったため、一律基準値の0.01ppmが適応され、今回ハウレン草から検出されたのは2.6ppmなので、260倍となった。

国内で生産された野菜が安心して買われる理由は、その農薬基準の設け方にある。まず、国内産の場合、検出された農薬自体が登録されたものかどうか、そしてその作物に使えるかを確かめる。

今回は国産の作物なので中国産ほど取沙汰されなかったが、中国産ならますます中国産作物の不安視を高める結果となるだろう。現在の残留農薬の検査頻度から言えば、世界で一番安全なのは中国産と言っても過言でないほど検査がなされている。

メディアではニュース性を持たせるため、より不安をあおるような大げさな報道の仕方をすることがあることを実感した。こうしたメディアに翻弄されすぎないように、より知識を深め、自らの安全を守って行かなくてはと感じた。

2) 「健康をうたった次世代遺伝子組み換え」

食料やエネルギーの世界的な不足で注目を集める遺伝子組み替え作物。これまでは害虫への耐性を高めたり、環境変化に強いような大豆やトウモロコシなど、作り手の負担を減らす目的のものが大半だったが、栄養や薬の成分を加えて消費者の利点を訴える次世代型の開発が進んでいる。

現在の世界における遺伝子組み換え作物の栽培面積は、1億2千ヘクタール近くまで達し、過去10年で10倍に増えた。しかし国内では輸入品だけで市場向けの栽培はなく、消費者の安全性への不安感が強い。そのため、国内の研究者は消費者が受け入れ易いよう、栄養や薬の成分を含んでいる付加価値の高い作物の研究を進める。

例えば犬の歯周病を治す効果がある遺伝子の入ったイチゴが現在研究されている。植物で薬の成分をつくると生産効率が高く、化学合成する場合に比べてコストは100分の1だ。それ以外にはアルツハイマー病を防ぐ米や花粉症の症状緩和を狙う米の研究があったり、世界

ではビタミン A を大量に含むよう改良した「ゴールデンライス」や、DHA の一種の「ステアロリン酸」を含んだ大豆などの開発に取り組んでいる企業がある。

ただ、次世代型の実用化には大きな壁がある。薬の成分があることで新薬開発と同じ様に患者に与えて効果があるかどうかを調べる臨床試験が必要だということだ。これにより開発コストは 100 億円規模になるので、企業の協力が必須となる。

食料不足やエネルギー問題から、国際的には遺伝子組み換え作物の価値が見直される動きがある一方では依然として安全性を疑問視する声も根強い。この次世代型の開発がうまくいき、消費者に受け入れられるかどうかがこのからの遺伝子組み換えの発展のカギになるだろう。

3) 「環境への取り組み」都道府県ランキング

インターネット調査を行うブランド総合研究所は、全国約 2 万人を対象に「都道府県別エコへの取り組み調査」を行った。

「資源ごみは必ず分別している」「冷暖房の温度設定に常に気をつけている」など、環境に配慮した 13 の行動について聞き、都道府県ごとにそれらの得点を求めて比較したところ、最も環境への取り組みが盛んであるのは長野県という結果になった。同県は県の全機関や企業を対象に環境経営システム「エコアクション 21」の導入をするなど、全県的な取り組みが積極的に行われている結果といえそうだ。

また、2 位には京都議定書の会場となり、全国初の地球温暖化対策の条例が設定されるなど積極的な取り組みがされている京都府。以下、3 位に東京都、4 位には以前より琵琶湖の浄水問題に取り組んでいる滋賀県となった。一方、最も得点が低かったのは高知県（47 位）。46 位に徳島県、34 位に愛媛県、29 位に香川県と四国各県はあまり環境活動に積極的ではないようだ。

またエコバッグの普及、すなわち「買い物時には買い物かごや買い物袋を持参」は富山県が 79.7% で 1 位。同県は今年 4 月に全国で初めてレジ袋の有料化が県内全域で一斉に行われた。一方、徳島県は 25.8% にすぎず、都道府県による差が大きいようだ。

小さい日本でさえ地域によってバラつきがある。こうした取り組みは自治体が主となることが多いので、まずは各自治体がもっと積極的になり、日本の環境問題への取り組み基準を底上げすることが必要ではないか。

個人の自らの意思が強いことが一番望ましいが、多くをまとめるには「決まり」が欠かせないと思う。